

# 極真への道



The way to Kyokushin

第12号

全日本少年少女空手道選手権大会

～第26回オープントーナメントグランドチャンピオン決定戦～

戸田道場の申し子たち

親子道場生特集

第9回愛媛県戸田道場部内交流大会

令和三年度強化選手指定

強豪列伝



# コロナに負けずに新しい**一歩**を踏み出そう

## ～極真空手を修行する理由～



国際空手道連盟一般社団法人  
極真会館 愛媛県戸田道場

代表師範 戸田美智男

新型コロナウイルスの感染は未だ収まらず、極真会館戸田道場も約1年半の間に、実に6か月近く稽古を中止に追い込まれたうえ、昇級審査や主催する各種大会が中止になるなど活動を自粛するしかありませんでした。

その様な状況でも、感染の隙間を縫って感染予防を徹底しながら日帰り合宿、昇級審査、昨年秋の「第9回愛媛県戸田道場部内交流大会」、そして今年3月には戸田道場のみで「第22回大洲少年空手道大会」を開催するなど各種

行事をやり遂げました。

しかし、今年になっても感染は収まるどころか、4月にはクラスターが多数発生し、毎日のように多くの感染者が出て、愛媛県は「まん延防止地域」に指定されて外出自粛を含め厳しい制約を受けることになりました。

その後、やっと感染者が減少に転じて、令和3年6月26日・27日の両日に大阪府立体育館で開催された「第26回オープントーナメントグランドチャンピオン決定戦(全日本少年少女空手道選手権大会)」において松井弥陸選手、菊川真莉紗選手が高校生男子の部及び女子の部で準優勝をするなど4人が入賞するという快挙を成し遂げました。

それは暗いニュースが多い中、一筋の光を見ることができ我々に大きな勇気を与えてくれたのでした。

国内ではワクチン接種も広がっており感染の減少が期待され、今後は8月の「第10回愛媛県戸田道場部内交流大会」や秋に開催される「第8回四国選抜空手道選手権大会(旧愛媛県空手道選手権大会)」等の大会が無事に行えることが期待されています。

ただ、デルタ株などの変異株や東京オリンピックの影響での感染増加の可能性もあり、コロナ禍がいつ終息するのか分からずに、人々は不安や恐怖からなかなか抜けることができません。

大山倍達総裁は極真空手の稽古に夢中になって、頭の中が空になった時に自分の技が一番拓ける「三昧境(ざんまいきょう)」と境地になると言われています。

まさしく我々が極真空手の稽古を集中して行えば、コロナなどに対する不安や恐怖を覚える心を吹き飛ばすことができるという意味だと捉えられます。

稽古に集中することによって、正常な状態を維持することができると思っています。

コロナに負けずに修行を続けましょう。

# 全日本少年少女空手道選手権大会

第26回オープントーナメントグランドチャンピオン決定戦

松井弥陸選手 菊川真莉紗選手 準優勝

(高校2・3年生男子軽量級の部)

(高校生女子軽量級の部)



令和3年6月26日(土)・27日(日)の両日、大阪府立体育館において2年ぶりに全日本少年少女空手道選手権大会第26回オープントーナメントグランドチャンピオン決定戦(以下「グランドチャンピオン大会」と第37回ウェイト制全日本空手道選手権大会(以下「ウェイト制全日本大会」)が開催された。

コロナ禍の中、選手、審判共に直近の抗体検査、付き添い人を含めた健康チェック表の提出、マスクを付けての対戦など徹底した感染対策が行なわれた。

極真会館愛媛県戸田道場(以下「戸田道場」)では14人が出場資格を得ていたが、保護者の方が医療や教師であるなどの理由で6人が欠場し、濱井師範代など3人の審判の派遣を予定していたが勤務先の許可が得られずに皆無となった。

また、ウェイト制全日本大会の複数の出場希望者も勤務先の理解が得られず出場者はいなかった。

唯一、戸田師範が微妙な試合内容について審判に助言をして解決する審議委員として参加していたが、西条道場の志賀先生と今治道場の神原先生がセコンドとしてサポートに来てくれ選手たちは大きな安心感が得られた。

密を防ぐために、6月26日(土)の午前中は小学3年生まで、午後は6年生までとし、翌27日(日)の午前中は高校生まで、午後はウェイト制全日本大会と細かく分けて行われた。

なお、出場クラスは昨年の申込時のもので、現在より1学年下の学年となる。

**第1日目(6月26日)～池内琉星 ベスト8入賞・北光希 3位入賞～**

初日の午前、戸田道場の初陣をきる小2男子の芥川團(西条)選手は2回目の出場である。

相手は関西総本部の強豪である今西應介選手。序盤はステップを使って互角に渡り合っていたが、徐々にボディを効かされ、ついに下突きで技有りを取られ5-0での判定負けとなり、次の雪辱が期待される。

午後最初は初出場の小4男子重量級の岩城斗也(西条)選手。過去グラチャンでの優勝経験がある超強豪の神田悠駿(白蓮会館)選手と対戦した。得意の左回し蹴りや後ろ回し蹴りを多用するも単発のみで当たらず、中盤に前蹴りによりバランスを崩されたほか、終盤のラッシュに対応できず手数で相手が上回り4-0の判定負けとなる。経験の差が出た試合であり、大きな試合の慣れが必要か。



3 人目の出番池内琥星(味酒)選手は、1 回戦シードで 2 回戦からの登場。対戦者は 1 回戦を圧勝して上がってきた平田将太郎(関西総本部)で、池内選手は初出場に思えぬ勢いで突きと回し蹴りを繰り返すも2-1と旗1本多いものの引き分けとなる。延長は手技、足技により圧倒3-1で判定勝ちする。

3 回戦の相手は、1, 2回戦を5-0で勝ち上がった中村碧斗(小阪会館)。頭一つ身長が高く、突きの圧力が非常に強く手数で圧倒され、本戦5-0で敗れるも、初出場でベスト8入賞は誇れるものであろう。

1 日目戸田道場最後の登場は、歴戦の勇者小学 6 年生男子重量級に出場した北光希選手(今治)で1 回戦シードとなり2 回戦からの出場となる。

対戦者は全日本ジュニアチャンピオンシップの優勝者であり、身長で5センチ、体重で 6 キロ重い辰巳存選手(聖武会館)、北選手は愛媛では圧倒的な体格を誇るが、本大会ではそれに勝る体格を有する者がごろごろいてさすが全日本大会と思われた。

序盤から両者突きの打ち合いとなったが、北選手が突きと膝蹴りで圧倒して5-0のワンサイドでの判定で勝利する。

3 回戦は今年のJKJO第 3 位で長身の都築莉久(世界総極真)との対戦。本戦は北選手の突きが的確に入るも2-0と旗2本が北選手に上がるも引き分けとなり延長となる。延長戦では懐に入りインローや膝蹴り、そして威力ある突きが的確に入り3-0で判定により勝利した。

準決勝は細身ながらスピードのある金城壮志(誠會)との試合。ヒット&アウェイの戦法を取るも本戦1-1の引き分け、延長戦は相手の顔面殴打が複数回あったことからペースが乱れ、スタミナ切れもあり手数が減り5-0で敗れた。

しかし、全国の選りすぐりの強者達を相手の 3 位入賞は誇れるものであった。

## 第2日目(6月27日)～ 菊川真莉紗 準優勝・松井弥陸 準優勝～

2日目最初は、初出場の中学 1 年軽量級小澤叶夢(西条)選手。1 回戦の相手が欠場のため不戦勝となり、2 回戦関西総本部の大島照悟選手と当たる。

序盤は緊張からかやや浮足立った感が否めず上段回し蹴りを多発するも、技の繋がりがなく単発で空を切る場面が多く、その後上段横蹴りをもらい技有りとなる。

それを取り返そうと中段突きから上段回し蹴りを繰り返したが、大島選手に冷静に受けられ5-0の判定負けとなり、経験不足からか会場の雰囲気にも飲まれた感があった。試合を数多くこなす経験を積み、まだまだ伸びしろはある。

次に登場した中学 2 年男子軽量級松井瞭誠(今治)選手は、悲願の初勝利を目指しての3 回目の出場。1 回戦は本山輝人(優至会)との対戦であったが、相手の出入りに気をつけて反応し、その動きに合わせてのローキックと接近戦では中段膝蹴りが効果的に入り、終始自分のペースで戦うことができ3-0で勝利した。

2 回戦は、水本龍人(圏擘會)と対戦、本戦は膝蹴りを有効に使い互角の戦いにより判定は1-0と相手に旗1本あがるも引き分け、延長戦はややスタミナ切れか手数が減り3-0の判定で敗れる。この試合に勝てば8 位以上入賞であったので実に惜しい試合を逃したが貴重な初勝利であった。

グランドチャンピオン大会も佳境となり、高校生女子の部に出場した菊川真莉紗(今治)選手は初めての入賞を目指し、1回戦は前多紗耶(拳悠会)と対戦し、積極的に攻めてインロー、外への下段回し蹴り、膝蹴りとバラエティーに富んだ攻撃が入り相手の動きが止まり本戦5-0で圧勝した。

準決勝戦の相手は塩田美梨(極真木村)で、得意の突き技を中心に蹴りに繋ぐ試合構成をし、ラスト30秒からペースを上げて本戦5-0でこれも圧勝し決勝戦に進む。

連続しての圧倒的勝利に優勝の2文字が応援する仲間たちの胸に浮かぶ。

決勝の対戦者は小笠原ゆい(聖心會)選手。菊川選手は回転の速い突きと蹴りを組み合わせて前に出て互角に戦うも、中盤に相手の顔面殴打を受け昏倒し、スピードが遅くなりラスト10秒で相手の上段回し蹴りが顔面に当たり技有りとなり、5-0で判定負けとなり優勝の栄冠が遠のいた。しかし、國本晴佳選手以来の高校女子での入賞は賞賛に値する。

戸田道場の最後は来春高校卒業のためにグラチャン最後の戦いとなる、高校2・3年男子軽量級 松井弥陸(今治)選手の登場。高校生ながら極真戸田道場四天王の一人と言われ、ジュニア世界大会準優勝など、あらゆる大会で上位入賞を勝ち取ったエース、前回は第3位に終わったが今回こそは優勝の呼び声が高かった。

1回戦空相選手が欠場のため不戦勝。2回戦は下間英史(北海道野本)と対戦し、試合全体を通じ自分の間合いで戦い、手技足技の手数が多く出て、本戦3-0で判定勝ちにより準決勝に進む。

準決勝の相手は、前の試合と同じく北海道野本道場の髪林秀悟、間合いをしっかりと詰めて自分の攻撃を確実に入れ、ラスト30秒からペースを上げて本戦3-0で判定勝ちとなる。

決勝戦は身長180センチと松井よりはるかに大柄な上野空大(真結氣)との戦い。前半は自分の間合いで戦えたが、中盤顔面殴打をもらい動きが乱れ、さらに距離を取り過ぎ中段前蹴りで場外に出され、相手ペースとなり惜しくも3-0の判定負けとなった。

しかし、高校時代の集大成が準優勝という結果は素晴らしいものであり、今後は一般部として再びウェイト制の舞台に上がり上位入賞することが期待される。

試合が終わって恩師の神原先生と共に松井、菊川選手2人が戸田師範のもとに来て、涙を流しながら「優勝できずにすいません」という姿を見ると戸田道場生のさらなる飛躍を予感させた。

最後に色々な理由で欠場した6人の選手を、その名誉のために紹介しておくが、学年は現在のものである。

松井瞳依(小5女子(今治))、岡裕人(小5男子重量級(本部))、神原杏菜(小6女子(今治))、中野結翔(中1重量(空港通り))、北彩花(高校女子重量級(今治))、近藤さやの(高校女子重量級(本部))

なお、入賞した今治道場の3選手は夏休みに入り戸田師範、神原先生と共に徳永繁樹今治市長に表敬訪問することが決まっている。



# 強豪 列伝

強豪列伝組手競技編

## 福岡陽澄選手

(松山潮見(本部)道場)

幼稚園の入門時から潮見本部道場で極真空手を続けてきて昨年は強化選手Bに選ばれたが、今年ついに強化選手Aに指定された。

特に評価されたのが、受験勉強をしながら稽古を中断せずに第9回愛媛県戸田道場部内交流大会、第22回大洲少年空手道大会の組手の部両方で優勝したうえ、難関の愛媛大学附属中学校に合格したことで、極真会館愛媛県戸田道場が目指す「文武両道」を成し遂げたことであった。

同じ道場には長年共に稽古に励んだ中学1年生の同級生9人がおり、お互いが切磋琢磨しながら成長をしてきた。

大洲少年大会で圧巻であったのは、今治道場所属で以前この強豪列伝で取り上げたオープントーナメントグランドチャンピオン決定戦準優勝者である強豪中の強豪、北光希選手に判定勝利したことであり会場の皆が驚かされた。

軽量で、けして大きな体格ではないが一步一步稽古をする姿は「継続は力なり」の言葉通り続けることがいかに大切であるかを教えてくれた。

強化選手Aであった兄の洸大君も、1年間の受験を経て名門高校に今春見事に合格して道場に復帰、2人で道場生たちに空手と勉学の両方に努力する後ろ姿を見せている。





# 強豪 列伝

## 寒作心選手

(松山潮見(本部)道場)

### 強豪列伝 型競技編

国際空手道連盟一般社団法人極真会館愛媛県戸田道場(以下「戸田道場」)には「型」の大会として「大洲少年空手道大会」と「愛媛県戸田道場部内交流大会」がある。

そして、その2大会を連覇したものは戸田道場の「指定強化選手A」の称号が与えられる。

極真会館の中でも型の練度の高い戸田道場約400名の道場生の大会で連覇をすることは至極困難であり、「型」の指定強化選手Aは10名に至らない。

しかし、その中で2人の道場生が兄弟で指定されている。

それが、寒作円選手と寒作心選手である。

「型」に勝つためには心・技・体の調和が必要であり、ただ単に繰り返し修練したからと言って上達するものではない。

長男の円選手に意識している事を聞くと「戸田師範の教えを一言も漏らさず聞き、覚え、そして実践すること」と答えた。

型は基本稽古、移動稽古を総合した技法としての「空手の集大成」である。型が上手な指導者は正確に「極真空手」の技を伝承できるだろう。

この2人には型の選手としての活躍はもとより、極真空手を後世に正確に伝承する空手家の一人となってもらいたい。



## 寒作円選手

(松山潮見(本部)道場)



# 親子道場生特集

極真会館戸田道場では、親子で一緒に通っている道場生が県内全体で40組100人近い数という驚くべき状況になっています。

最初から親子で始めるケース、子供がやっているのを見て保護者の方が後から入るケールなど色々ありますが、どこの道場でも親子の数組が仲良く、時にはライバル心を持って稽古をしていて殺伐とした「ケンカ空手」ならぬ「ファミリー空手」とも言うべき和やかな雰囲気醸し出して、誰でも入門しやすい環境が生まれています。

とはいえ極真空手なので、土気は高く試合や昇級審査という目標を持って共に修行に励んでいる状況です。

今回は、各道場の親子の方々にはスポットを当て、親子で入門した理由や目標を書いてもらいました。

西条  
道場

「親子で目指す全日本チャンピオン」

芥川光宏 芥川團

私が空手を初めて早いもので2年になります。入門のきっかけは息子の團がとにかく強かつこいいものを目指し空手をしている姿を見ていて自分も熱くなったこと、そして「一緒にやろや」と言われた事です。体力面や腰痛を持っていた事もあり不安でしたが息子のお願いを無下にすることもできず意を決して入門を決意しました。初めてみて息子を尊敬するようになりました。自分で思っている様に、頭で考えている様に動けず試合で勝ち進んでいく息子をすごいと思いました。息子はグラチャン（「オープントーナメントグランドチャンピオン決定戦」の略称。以下同じ。）に出場する等選手として活躍させてもらっていますので私も全日本の舞台で試合をしたいと夢を抱いています。またいつも御指導頂いている志賀先生に少しでも近づける様に頑張っていきます。日々親子で精進して技術だけ体力だけでは大きくなれないことを痛感しております。心を鍛えそして仲間と戦友と共に前へ進んでいくことが大切だと極真空手は教えてくれました。まだまだ親子ともに未熟ですがいつか必ず二人で全日本、グラチャンで戸田師範と志賀先生に優勝をプレゼントしたいと思っています。そして二人で世界を目指します。

押忍



愛媛県警  
極真空手部

## 「極真空手との出会い」

村上哲也 村上晴紀

私は、息子の晴紀と共に、息子が小学校に入学した平成28年5月に、戸田道場に入門し、極真空手を始めました。

当時私は、県警本部にある生活安全特別捜査隊に勤務し、全国規模で展開する経済事件の捜査に従事していましたが、その時、共に勤務していた先輩から、県警極真空手部の存在や、道場の主催者が戸田師範であることを知ったのです。

戸田師範は、平成19年に、私と同じく特別捜査隊で勤務していた当時の上司であるとともに、私の結婚式の披露宴でスピーチをしていただいた警察の大先輩でした。

私自身、以前からフルコンタクト空手に興味があり、いずれは息子に空手を習わせたいという思いがありましたので、必然的に戸田道場の門をたたくことになったのです。

当初は、息子に空手を習わせるために、息子が小学校に入学すると同時に、体験稽古に参加させました。

私が稽古の様子を見学していたところ、師範から「お父さんも一緒にやってみませんか。」と声をかけていただいたのです。

それから、あれよあれよという間に、息子と共に入門する運びになり、現在に至っています。

現在私は、新居浜警察署に勤務しているため、単身赴任となっているのですが、空手のおかげで、離れて暮らす息子とも共通の話題でコミュニケーションが取れています。

昨年、念願の黒帯を取得することが出来ましたが、今後は息子が黒帯を取得できるように、共に稽古に励んでいきたいと思えます。

押忍



## 「お父さんと空手」

松木洋三 松木蒼真

新居浜  
上部道場

僕のお父さんが、空手を始めたのは僕が初めての空手の試合にでて負けた後でした。負けて悔しかったからもっと練習して勝ちたいとお父さんに言うとじゃ一緒に頑張ろうかと入門してくれました。

一緒に稽古をしていると色々な事を教えてくれたり、稽古後の居残り練習などしてくれて今では少しは試合にでて勝てるようになりました。稽古中は僕の前には先生、後ろにはお父さんがいて見られていると思うと緊張する時もありますが試合で勝てたり、稽古を頑張っているとお父さんは頑張ったねと声をかけてくれるのがうれしいです。お父さんも僕が稽古をしている姿を見たり僕と一緒に稽古ができるのが好きだと言っていました。

僕はまだ空手の試合にでて優勝したことがないのでいっぱい練習して優勝してお父さんの喜ぶ顔を見れる

ように頑張りたいと思えます。



新居浜  
川東道場

### 「お父さんと空手」

穂木徹 穂木竜之介

僕が空手を始めたきっかけは、お母さんのすすめでした。僕は体が大きかったのも、それを生かせる事が出来るのではないか？礼儀正しくなるのではないか？と思い始めました。

見学に行った時、ミットの音やみんなの大きな声にビックリしました。長く見ているとしんどそうだったので、続かないのではないかとその時は思っていました。でも実際始めてみると友達も出来て、先生には褒められたりして、とても楽しい所でした。

そして今まで道場の送り迎えをしてくれるだけだったお父さんが、稽古を見学するようになり、試合に応援に来てくれた時に道場生みんなの戦う姿が、カッコいいと自分も空手を始めました。僕が空手を始めた時にも、家で練習に付き合ってくれましたが、自分で空手を始めてから更にミットとかでアドバイスをしてくれ、色々なトレーニングを教えてくれて、とても力になってくれています。他に良かった事は、空手を始めてからお父さんはタバコを辞めて、空手に集中しています。

今、コロナウイルスの影響で道場での空手の練習が出来ないのでオンライン稽古や自主トレ中心になっていて、モチベーションが下がってしまいそうですが、自分なりにモチベーションを上げて稽古を続けて頑張ります。もしコロナが落ち着いて試合が始まったら自粛期間に行ったトレーニングを生かせる様に頑張ります。

そしていつかお父さんに全力で立ち向かい組手で倒したいです。その為にもずっと空手を続けて上達していきたいです。



### 「空手を通して親子の絆」

村上敦 村上咲弥 村上颯

松山空港  
通り道場

空港通り道場は新日本建設社屋の3階で稽古を行っており、自分自身が新日本建設に勤めている関係上、入門前より子供たちの元気な掛け声を聞いておりました。

入門するきっかけとなったのは、今から6年前の長女咲弥（さや）が小学2年、長男颯（たける）が幼稚園年長の時、私が何気に「会社でしている空手見てみる？」と言ったことでした。子供たちは先輩道場生の姿を見て興味を持ったようでそのまま入門することになりました。子供たちの稽古の様子を見学していると、私も次第に興味湧いてきて杉野師範代のすすめもあり、子供たちから遅れること1年半、私もついに入門しました。実際にしてみると、見るとやるとでは全く違い、同じ動きが出来そうで出来ないものです。中年の域の私には、子供たちが覚えるスピードに中々ついていけず、先輩である娘や息子に教えてもらうことも多々ありました。昇級審査や合宿など3人で参加し、部内交流大会では私も挑戦することで、お互いに良い所、悪い所を指摘しあったりして励ましあっています。

今後の目標は、黒帯目指して日々の努力を重ねていき、私は来年の昇級審査に挑戦したいと思っています。子供たちは最近、塾や部活などで稽古に参加出来ない日も多いのですが、出来るだけ長く一緒に続けたいと思っています。

今後とも皆様、親子共々宜しくご指導お願い致します。

松山鷹子  
道場

### 「親子空手のきっかけ」

一色翼 一色爽司

親子で空手の稽古をしております一色です。

親子空手のきっかけは息子の内弁慶な性格を何とかしたいという思いからでした。息子は家庭ではとても明るく元気でいっぱいですが、通っている幼稚園の先生や不慣れな人への挨拶などが苦手で内気な面があります。何とか素の自分を出せるきっかけを作ってあげたいと思い、空手の稽古であれば礼儀作法と強い心が身につくのではと考えました。「パパも一緒にしてくれるなら、僕もするよ。」と息子の言葉がきっかけで私が先に習い、息子が5歳になると二人で道場へ入門し現在に至っています。

今後の目標としては親子で組手の試合に出てみたいと思っています。私自身、身体が硬く中々難渋しておりますが、息子とともに心身の成長が出来ればと思います。

今後も親子共々ご指導のほど宜しくお願いします。



### 「親子でライバル」

松山味酒  
道場

瀧平陽子 瀧平陸翔

空手を初めてまだ10ヶ月の親子です。

子供が年長になったら何か習い事をと考え、色々考えた結果、極真空手を選びました。理由としては、親としては男の子なので強い子になって欲しいという気持ちと礼儀正しい子になって欲しいという思いからです。

そして、私も格闘技に興味があったので付き添いで行くなら一緒にやろう！と始めることにしました。やってみると楽しい！強くなりたい！！という気持ちがお互い強くなりました。始めた時期も同じということもあり、お互いがライバル！先に私の帯が上がると子供は「ママに負けたくない！」と私は「子供に負けてなるものか」と（笑）。

初めての大会では組手で負けてもあっけらかんとしていましたが、2回目の大会では負けたことで涙するほどに成長していました。

将来の夢は“空手家”と言っていますが、とりあえず、一歩ずつ確実に成長してほしいです。

松山三津  
道場

「空手でコミュニケーション」

兵頭佑哉 兵頭海輝

親子で空手を始めて1年半になります。最初は、子供に、「心身ともに強く、礼儀正しい男の子に育てほしい」という思いから空手を始めさせるつもりでした。しかし、体験入部で様子を見てみると、私自身運動不足なこともあり、「子供と一緒に汗を流すのもいいな」と思い、親子で入門しました。

真剣に稽古に取り組む親の背中を見て、子供に何か刺激になればと思いますし、私自身も弱音を吐く姿を子供に見せられないというプレッシャーを感じながら、親子で切磋琢磨していったらと思っています。

今後の目標は、試合で親子そろって入賞したいですね。



「世界一の父親にしたい」

今治  
道場

國本貴裕 國本明佳

「今日から一緒にするけん」と突然言われ、外で稽古を見ていた父と同じ空間で汗を流すことに違和感と不思議な感覚でいっぱいだったことを覚えています。

それから約12年が経過しましたが、私の空手生活にはどこを切り取っても必ず父が居ます。時に厳しく、泣かされながら練習することも多々あります。それでも私が絶不調に陥った時は照れ臭いのか、いつもLINEでメッセージを送って励ましてくれる優しい父です。また、父が空手をするようになってからというもの、家でもどこでも目が合えばとりあえず一発殴るか蹴るかが父と娘のコミュニケーションの一つ、みたいな変なお決まりもできました。

そして私の夢の一つは、父を世界一の父親にすることです。最近では大きな大会でも少しずつ結果を残せるようになりましたが、優勝以外では一緒に写真を撮ってくれません。そんな父にいつか必ず世界一のトロフィーを持たせ、涙でぐちゃぐちゃか笑っているかはわかりませんが、一緒に写真を撮らせませす。(娘的には号泣してほしいです。)

このご時世で先が見えない今ですが、お父さんへ。年も重ねて昔よりしんどいとは思いますが、もう少しだけ！娘の我儘にお付き合いをよろしく願います。やれるところまで、これからも一緒に頑張りたいです。

## 愛媛県警察刑事部長 警視正 石崎洋一さん

愛媛県警極真空手部の石崎です。

戸田代表師範をはじめ各道場責任者、指導者の先生方におかれましては、新型コロナウイルス感染症防止対策を講じつつ、オンライン稽古等にご尽力されており、皆様の極真空手への愛情・熱意に改めまして敬意を表する次第です。

さて話は少しさかのぼります。昭和36年、体重1.9キログラム（7か月）の未熟児として生まれた私でしたが、幸いにも丈夫な体に育ててもらい（高校時代は柔道部に所属）、大学卒業後の昭和60年、警察官になりました。動機は「社会正義の実現に微力ながら関りたい」と思ったからでしたが、小学生のときに観ていた刑事ドラマの影響もあったかもしれません。以降36年余、これまで延べ22の部署で勤務し、この中には、愛媛県内の警察署や県警察本部のほか、警察庁（東京都霞が関）等に出向し通算7年間勤務したこともありました。

警察官となって私が心掛けたことは、自分の長所や短所を理解し、目の前の課題の一つひとつ誠実に向き合うということでした。たとえば「厳しい警察学校での教養・訓練にしっかり取り組みたい」、「卒業後は第一線勤務で早く仕事に慣れ、県民の皆さんのお役に立ちたい」など、努力すれば実現可能な身近な目標を節目節目で設定し、実行に移すことを心掛け今日に至りました。その結果は？、自分としてまだまだ感はありますが、少なくとも空手の修行において、全ての道場生は「目標を持ち、日々地道に稽古を積み重ねる」ことが重要であり、このことは、勉強やどの仕事においても同様のことが言えると思います。

他方で、これは警察という仕事の特殊性ですが、時に悪と対峙しなければならない場合があります。警察の在り方として「正・強・仁」、すなわち、

「正」 正しい・・・

「強」 不正に力負けしない強い気力、体力、知力、技術力・・・

「仁」 思いやり・・・

ということを中央のある幹部の方が言われておりましたが、極真空手においても、大山総裁が

「力なき正義は無力なり、正義なき力は暴力なり」

と言われており、警察と極真空手の理念には相通じるものがあると思います。

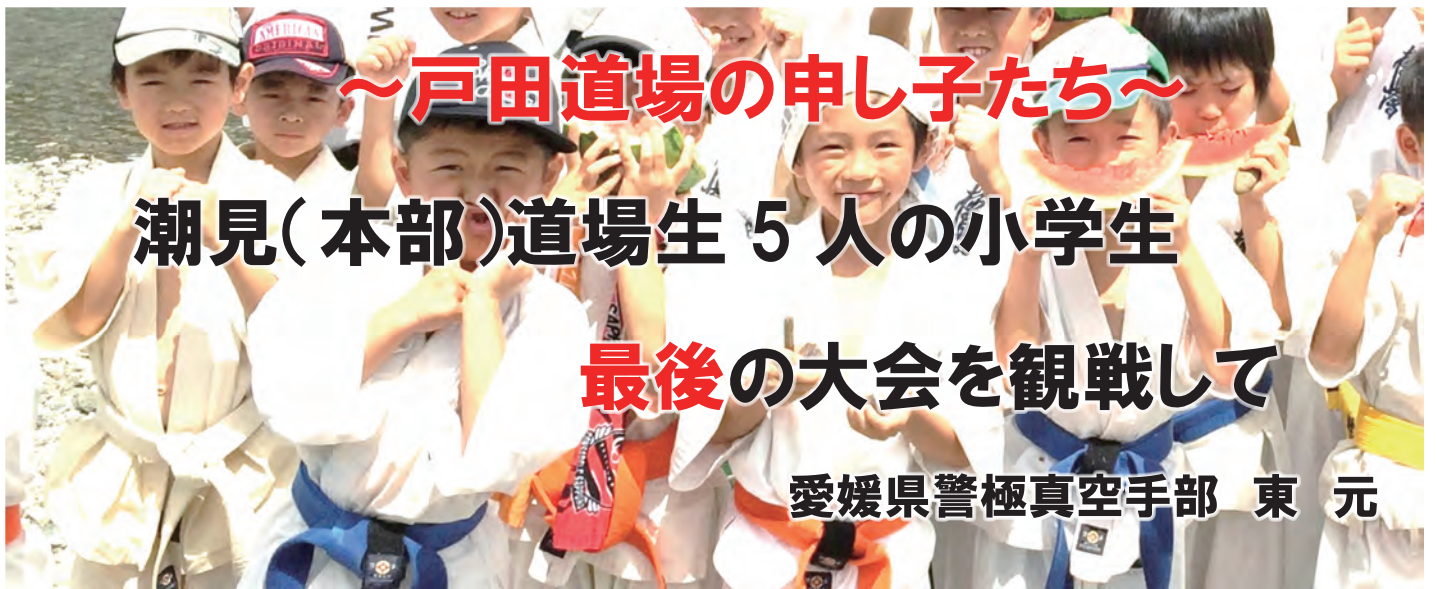
仕事面で私に武勇伝のようなものはありませんが、これからも身の丈を知り自分に正直に、背伸びをしない自然体を貫き、全体の奉仕者としての務めを果たしたいと考えています。

また、空手に対しては、入門し17年になりますが、現在もこれまでも稽古不足感は否めず反省しております。来年あたり、仕事に余裕ができれば、継続は力をモットーに、何歳になっても目標を持って前進したいと思います。

皆様、道場稽古等でお会いしたときにはよろしく願います。



(昇段審査の時の写真。今は黒帯になっている。)



## ～戸田道場の申し子たち～

# 潮見(本部)道場生 5 人の小学生

## 最後の大会を観戦して

愛媛県警極真空手部 東 元

愛媛県警極真空手部部員として、さらに本部道場の保護者として入門したての幼稚園児の時から小学生最後まで、お互いが切磋琢磨して成長をしてきた姿を見続けてきた 5 人の姿をレポートします。

令和3年3月14日、青少年健全育成「第22回大洲少年空手道大会」が開催されました。

思いがけない感染症の流行により当たり前の日常生活が景色を変えてから1年、空手道に励む道場生達が待ち望んでいた大洲大会が延期を経て、開催自体危ぶまれながらも1年越しに遂に開催となったのです。

コロナ禍において、何よりも道場生の命を大切にする戸田道場が各種感染症対策を第一に考慮した運営の下、他流派からの参加を見送り、組手も学年ごとのクラス別リーグ戦による開催と装いを変え、型競技も合わせたのべ300人による待ちに待った大会。

今春小学校卒業を迎えた6年生達にとっては小学校生活最後の闘いとなります。

そしてその中に、空手を通じた健全育成と社会に貢献する人材の育成を掲げる極真会館愛媛県戸田道場(以下「戸田道場」)・大洲少年空手道大会の理念を体現する本部道場の申し子たちがいました。

寒作円、福岡陽澄、伊藤銀河、東悠樹、清水航一郎

彼らは皆、幼少時から本部道場において直接戸田師範から指導・薫陶を受けて心身を鍛錬し、人としての道徳・礼儀作法を身に付けるとともに、厳しい各種強化稽古にも積極的に参加して鍛錬を積み、県内外の試合に挑んできたのです。

5人は時にはライバルとして激しく闘い、時には仲間として共に空手道に邁進してきました。

心技体を修練し、文武両道を体現する彼らは、戸田道場の次世代を担う逸材達です。

1人ずつ紹介しますと、

### ★寒作円(2級)

極真愛媛総帥戸田美智男師範の孫にして味酒道場を牽引する寒作典員、智美夫婦の実子でもあるサラブレッド、幼少時から型における非凡な才能・センスを発揮、競技試合での美しさと完成度から度々型強化選手Aに認定されており、実力は戸田道場生400人の中でもトップクラスです。組手でも5年時にリアルチャンピオンシップ全国大会に出場。



### ★福岡陽澄(2級)

グラチャンに2年生、5年生と2度出場した本部道場不動のトップファイター。軽量級でありながら無尽蔵のスタミナを誇り、相手の有効打を受け流し絶えず動きながら闘い続けるファイトスタイルは正に難攻不落、各種大会で数多くの入賞歴を誇ります。本大洲少年空手道大会を含み、これまでに全国2位の北選手にも二度の勝利を収めています。



### ★伊藤銀河(3級)

恵まれた体格とソフトボール投げで優に 50メートルを超え松山市総体にも出場する程の運動能力を武器に、母、弟とともに空手一家の筆頭として黒帯取得を目指す本部道場の猛者。相手を圧倒する身体の圧力は脅威であり、愛媛県戸田道場部内交流大会では1年生から優勝の常連。中学生となり型競技にも力が入る等日々の研鑽に予断がありません。

### ★東悠樹(3級)

小学校生活で実に合計 43 大会に出場、組手公式戦は 100 試合を超える百戦錬磨の拳士、熱い思いをクールに秘め、左上段回し蹴りを武器に県内外の強豪と数々の真っ向勝負の激闘を繰り返し、多数の入賞を誇る。えひめ愛顔のジュニアアスリートアカデミー生に選ばれた高い身体能力とマラソンで培った脚力を武器に今日も闘いに挑みます。

### ★清水航一郎(3級)

幼少時より空手以外にも水泳、ピアノ、ソロバン、英語等に勤しみ、今春から愛光中学校へ在学している頭脳明晰・万能な空手家。判断能力と諦めない心を合わせ持ち、柔軟性とバネのある身体から繰り出される芸術的な右上段回し蹴りを武器に各種大会で暴れ回り、数々の入賞を誇る他、型の完成度の高さにも定評があります。

この個性的な5人が臨んだ小学校生活最後の大洲少年空手道大会、午前中は型競技で寒作選手が優美で盤石な型を披露して見事優勝。

午後の組手の部では、5人が全国2位の今治道場北光希選手も加わる死のリーグを含めた複数のリーグに挑み、各試合ともに激戦に次ぐ激戦、激しい潰し合いとなったのでした。

死のリーグ最終試合に挑んだ福岡選手は、北選手の重爆ローと膝蹴りに耐えながら、一瞬の間をついた右上段回し蹴りによって北選手から劇的な技ありを奪い優勝、全国レベルの大きな衝撃と余韻が残る中、大会は終了となりました。

受験のため長期間稽古から遠ざかっていた清水選手はブランクを感じさせない切れ味のある動きで勝ち進んでグループ2位に食い込み、同リーグの優勝はダイナミックな組手を披露し、その清水選手に初勝利した伊藤選手となったのです。

同じく中学受験のため、長期間稽古を離れていた東選手も死のリーグでブランクを物ともしない積極果敢な組手を展開して強化選手を撃破する等食らいつき、同リーグ3位入賞となった。

こうして5人の申し子たちの小学校生活最後の死闘は終わったのです。

大会を通じて申し子たちが試合前に共に笑い合う姿、試合では全力勝負、終われば勝敗抜きにノーサイド、お互い隣通しに倒れこむ姿、試合の合間に対戦相手へのアドバイスを送り合う姿等、激しくも清々しくさわやかな光景がそこかしこに見られました。

大会を通じて彼らからは同じ釜の飯を食って長年修行に励んだ絆を感じ取れたのです。

また、学年が上がる都度、彼らが気さくに後輩に声をかけて世話をしている様子が見られるようになってきており、空手道を続ける上級者としての配慮や優しさも感じられました。

ライバル心と友情、激しさと不動心、尊敬と礼儀、他者への慈しみ

青少年健全育成を掲げる大洲少年空手道大会が、20年以上に亘って求め続けてきた空手を通じての青少年のあるべき姿がそこにはあります。

本部道場には彼ら以外に、小学校の途中から入門した4人の同級生も非常に頑張っており、彼らと共に中学生となりみんなで切磋琢磨して集う1年後の大洲少年空手道大会が今から楽しみです。

戸田師範の教えを受けて幼稚園時代と小学校の6年間で心身ともに成長し、道場生の模範となる申し子たち5人が近い将来黒帯を纏う時、戸田道場に新時代が到来すると確信しています。





# 第9回 愛媛県戸田道場 観戦記

## KYOKUSHO 部内交流試合

新居浜上部道場 責任者(師範代) 濱井敦史

今年(令和2年)はコロナのせいで散々な一年でした。新型コロナウイルスが全世界に蔓延し、未だ終息の気配が見え難い状況です。

まずは3月に予定されていた第22回大洲少年大会が1年延期。4月の国際セミナーと国際親善大会(第9回部内交流大会を兼ねる)は中止。国際的なイベントでもあり、かなり時間をかけて準備していたものがすべて水の泡となりました。

そのような状況の中、3月からは全道場が稽古自粛、4月からのオンライン稽古開始、6月からは稽古再開も対人稽古無し、消毒を徹底してマスクやフェイスシールド着用という未曾有の状況での稽古でした。その後フェイスシールド付きヘッドガードが発売され、ようやく組手稽古も行えるようになった次第です。

経験したことのない生活が続く中で、戸田道場生はいつ行われるかわからない大会や審査を目標にコツコツと修行を続け、地道な稽古に汗を流してきました。この逆境でこそ極真精神が生きてきます。そんな道場生のための大会がついに開催されました。

秋晴れの中、11月1日(日)愛媛県武道館主会場において第9回戸田道場部内交流大会がコロナ感染症予防を徹底して開催されました。型、組手に延べ300名を超える規模です。大会も9回目を迎えると、さすがに初期の頃とは比べものならないほど選手の技術向上が見受けられます。幼年部から壮年部まで幅広い階層に多くの道場生が参加しました。

はじめに行われた組手団体戦は、小学生低学年のみ8チームで競われました。従来セコンドに先生や保護者がついて、周りからの応援も多く熱戦が繰り広げられるのですが、今回はセコンド無し、観客は2階席からの応援となり、粛々と試合が進みました。しかし試合内容は激戦が多く、全チームに力の差はありませんでした。そのようななか栄冠を手にしたのは、大方の予想を覆し、決勝戦で本部Aに全勝で勝った上部Aです。部内交流とは言え強化選手も出場でき、各道場から選抜された選手が戦う団体戦は組手レベルが非常に高く見応えあるものでした。3位は上部Bと三津です。A・Bともに入賞した上部勢は大躍進でした。今回団体戦は低学年のみだったので、次回は是非高学年の攻防も見たいところです。高学年のトーナメントが組めなかった大きな理由は、学年が上がると他のスポーツに転向する子や学業に専念する子が出てきて、チームが組めないためです。今後中高生を含め若者を如何に育てるか、各道場の課題となってきます。

次に行われた型試合は、やはり本部、味酒、三津の御三家が強いです。予選から姿勢の崩れない安定した気合い溢れる型が披露され、ベスト4以上の決勝型になると難易度の高い「観空(カンクウ)」「征遠鎮(セイエンチン)」をはじめとして「一八(セイパイ)」や「臥龍(ガリュウ)」などこれまであまり演じられなかった型も登場し、型に対する道場生の飽くなき追求が見受けられました。これまで型の王者として君臨していた小学生高学年上級の部に出場した池内琥星選手(味酒)が準決勝で敗れるという波乱もありましたが、勝った真鍋瑛太選手(川東)も切れの良い気迫溢れる演武で素晴らしいものでした。型試合は道場に一人型のスペシャリストがいると、他の子も連鎖反応して上達するのではないのでしょうか。入賞道場に偏りが見られるのはそのためです。また今回気になった審判のジャッジの不透明さは、審判員のチェックポイントが曖昧であることと、型自体を間違えて覚えている点が上げられました。それらを早急に改善すべく戸田師範が「型審判規定」を作成し先生方に意思統一の徹底を図っております。次回からはさらに厳格な判断で審判されることでしょう。

さて組手個人戦になると選手も緊張がほぐれ、本来の力を出し切れるようになりました。特に味酒道場は各学年まんべんなく入賞者を出しており、層の厚さがうかがえます。低学年は団体戦で入賞チームを排出した上部と三津が多く、ちびっ子選手たちのこれからの成長が期待されます。寒作円選手(本部)は型・組手双方で優勝しており、非常にバランスのとれた選手です。一般男子上級では、型で宮園圭人選手(本部)に敗れた村上哲也選手(県警)が、組手でリベンジし優勝しました。ベテランと若手の攻防も部内交流大会ならでは的一幕です。

そして今回のメインイベントとなる特別試合が最後に行われました。目玉となる國本明佳選手(今治)や直野天佑選手(川東)が欠場の中、一般女子では近藤さやの選手(本部)が、他の強豪選手に対して安定の組手をしてリーグ戦を制し実力を見

せつけました。また小学3年生男子の部と小学5年生男子の部はリーグ戦で全員が1勝1敗で並ぶという混戦ぶりでした。決して諦めず最後まで勝利を信じて戦った結果です。優勝した高橋瑛徳選手(本部)、瀧田蓮選手(川東)には強い極真精神を見ました。その他特別試合で優勝を手にした佐藤大緒選手(西条)、岡裕人選手(本部)、福岡陽澄選手(本部)、小澤叶夢選手(西条)、松井瞭誠選手(今治)も含めて、彼らは今後全国を舞台に活躍するだろう戸田道場期待の星です。

大会運営は非常にスムーズで大きな混乱もなく、コロナ禍での大会はこうあるべきだという模範のようでした。何よりも選手の健康のため大会出場者の体調管理シート提出義務付けや当日のサーモグラフィーによる検温、組手試合は全選手が飛沫防止用ヘッドガード着用など徹底したコロナ感染症予防対策を行ったことが、道場生や保護者様の安心や信用に繋がりました。大会運営側と参加者との強い絆に結ばれた連携により、今回の部内交流大会が成功裏に幕を閉じることができました。戸田師範はじめ松山地区の道場責任者の先生方、県警空手部の皆様には準備から片付けまで大変お世話になりました。経験したことのないこれまでとは違った大会でしたが、どのような状況でもなせばなるという事が証明されました。実り多き、次回に繋がるコロナ禍での大会でした。押忍。

令和2年12月31日

第9回愛媛県戸田道場部内交流大会 結果一覧

部門	優勝	準優勝	3位	3位	ベスト8					
組手団体戦	道場名	道場名	道場名	道場名						
組手団体戦低学年	上部道場A	本部道場A	上部道場B	三津道場						
型の部	氏名	道場名	氏名	道場名	氏名	道場名	氏名	道場名	氏名(道場名)	
幼年	土井瑛介	味酒	阿部光真	三津						
小学生低学年初級	西野万琴	空港通り	芳野穂佳	三津	小川紗良	三津	渡部陽道	三津	安井祐貴(今治) 井住健人(三津) 川端大雅(味生) 兵頭海輝(三津)	
小学生低学年上級	齋作心	本部	芳野翔琉	三津	松本蒼真	上部	近藤駿	川東	今津瑛貴(川東) ハダダ(本部) 高橋瑛徳(本部) 阿部杏香(三津)	
小学生高学年初級	重松隼人	今治	山内燈河	味酒	政岡魁人	味酒	高橋愛葵	本部		
小学生高学年上級	齋作門	本部	真鍋瑛太	川東	岩城斗也	西条	池内城星	味酒	神原杏菜(今治) 高瀬社(西条) 西村健吾(味酒) 瀧田蓮(川東)	
中学生以上一般初級	玉井祐子	本部								
中学生以上一般男子上級	宮園圭人	本部	村上哲也	県警	濱田晋太郎	本部	二宮快地	本部		
中学生以上一般女子上級	菊川真莉紗	今治	宮崎小織	本部						
組手の部	氏名	道場名	氏名	道場名	氏名	道場名	氏名	道場名	氏名(道場名)	
幼年	浅海桃雅	上部	阿部光真	三津	高橋凜花	本部	戎居駿介	味酒		
小学1年生	川端大雅	味生	砂田着彩	上部	渡部陽道	三津	吉江理人	味酒	谷口莉駒(今治) 宮本和弦(味酒) 山本昌宝(味生) 戸田一風(空港通)	
小学2年生	上浅史人	大洲	兵頭海輝	三津	井住健人	三津	安井祐貴	今治		
小学3年生	岡田拓真	空港通り	芳野翔琉	三津	田中蓮大	空港通り	松下環士	空港通り	西村隼(大洲) 浅海夢夢(上部) 松本蒼真(上部) 777(今治)	
小学4年生男子	高瀬社	西条	田村英誉	味酒	山内燈河	味酒	政岡魁人	味酒		
小学4・5年生女子	福田心優	上部	竹田依緒莉	味酒						
小学5年生男子	小松陽翔	味酒	村上晴紀	本部						
小学6年生男子	齋作門	本部	伊藤銀河	本部	末廣裕生	本部	真鍋瑛太	川東		
中学生男子	池田翔真	今治	土居優斗	大洲						
一般女子の部	石川蘭乃美	県警								
社年の部	保子圭	上部								
高校生以上一般男子初級	芥川光宏	西条	飯尾龍太郎	上部						
高校生以上一般男子上級	村上哲也	県警	宮園圭人	本部						

特別試合優勝・準優勝者

部門	氏名	道場名	部門	氏名	道場名
特別試合小学3年男子	高橋英徳	本部	特別試合小学4年男子	岡裕人	本部
特別試合小学低学年	佐藤大緒	西条	特別試合小学5年男子	瀧田蓮	川東
特別試合小学6年男子	福岡陽澄	本部	特別試合中学男子①	小澤叶夢	西条
特別試合中学男子②	松井瞭誠	今治	特別試合一般女子 優勝	近藤さやの	本部
			特別試合一般女子 準優勝	菊川真莉紗	今治



## 令和2年度 昇段審査 ～黒帯は空手家の勲章～

令和2年の昇段審査は、10月11日(日)に新型コロナウイルスの感染予防の観点で密を防ぐために例年行われる本部道場から広い砥部町ゆとり公園武道場に会場を移して実施されました。

感染予防の為に基本、移動、型、体力審査の全てでマスクを付け、しかも飛沫防止用のヘッドガードを使用しての連続組手と、過去の昇段審査と比べ、その過酷さは非常に大きなものでした。

しかし、受審者の全員は、それを物ともせず全ての審査項目を完遂し、全員合格の栄冠を獲得しました。

今回の審査の特徴は、3段を受けた西条道場責任者の志賀賢一先生を初め、初段を受けた愛媛県大会などで活躍している曾我郁弥君(今治)、松井弥陸君(今治)、高橋みのりさん(新居浜上部)、近藤さやのさん(本部)の5人と、さらに戸田道場の基盤を支える愛媛県警空手道部部員であり壮年で初段受審の村上哲也さん、2段受審の堀内信夫先輩の2人が受けたことでしょう。

得てして大会指向の道場生は稽古を組手に偏りがちで、基本や移動、型を疎か

にしがちですが、全員がしっかりと稽古をしており、壮年の2人と同等にやり遂げたのでした。

覚悟していたとはいえ、通常稽古の数倍の量の審査規定は、100本からスタートした基本から移動、型と進む過程で次第に体力を奪われていく様子が顕著でしたが、全員が必死の形相でやり続けました。

特筆すべきは、体力審査の棒飛び10回と足首掛け立ち上がりの2つを完遂した高橋みのりさんと、壮年部ながら棒飛びと、受審者の中で唯一逆立ち往復をやり遂げた村上哲也さんの2人は賞賛に値するでしょう。

最後に行われた組手審査では、壮年部以外の初段受審者は10人、そして3段受審者は30人連続組手に挑戦したのですが、さすがに大会指向の人ばかりで、呼吸がやりにくい飛沫防止用ヘッドガードを付けていながら全員が完遂しました。

中でも30人組手の志賀先生は、とても40歳を超えた年齢とは思えない安定した組手で多くの技あり、一本を取るとい

う素晴らしい出来で、昨年の組手審査で足に怪我を負い途中で中止となっただけに感慨深いものでした。

さて、極真会館戸田道場は今年5月で創設10年目を迎えたわけですが、現在までの入門者は650人ほどで、その中で黒帯を取得した人は高段者を含めて約60です。

つまり、単純に計算して入門者のうち黒帯に到達する者は1割足らず、10人入門しても1人いるかないかという難しいものです。

厳しい崖をよじ登るように、完成がないと言われるほどの武道の厳しい道程を歩んできた7人の皆さんが、今回の審査でそれぞれの段位を取得したことは勲章を得たと同じくらい立派なことです。

今後は、段位取得により修行が終わったわけではなく、むしろスタートラインに立ったものと思って、気を緩ませないように今後も生涯の修行に取り組んで頂きたいものです。

そして、多くの道場生がこの人たちに続いて黒帯を取得し、人生における自信と勇気を持って欲しいと思われま



# 道場紹介～愛媛県警極真空手部の巻～

愛媛県警極真空手部とはどうあるべきか

部長 橋本 司

愛媛県警極真空手部(以下「県警極真空手部」)の橋本です。今回、機関誌に県警極真空手部の寄稿の機会を与えてくださりありがとうございます。

県警極真空手部とは文字通り、戸田師範が現職の警察官であるときに作られたものであり、現在、24名(OB部員含む)の警察官、警察職員が入門しております。部員は令和3年4月現在、東予方面は四国中央署から南予方面は八幡浜署と広く各署に所属し、その他、警察本部、警察学校、松山市役所出向等と、様々な所属において、本当に多岐にわたる業務を行っております。

国際空手道連盟 一般社団法人極真会館 愛媛県戸田道場(以下「戸田道場」)内に県警空手部が存在しておりますが、戸田師範が県警空手部を設立するときからご一緒させていただいた私から見れば、戸田師範が、現職で各所属を定期異動するたびに、その所属で、部員が入門(誕生?)しており、ある所属では戸田師範が「ファイトクラブ」を作ったといった情報が舞い込み、とにかく空手部の普及に余念がないこと、業務多忙であるにも関わらず、当時空手部部長であった戸田師範の精力的な活動に只々、驚くばかりでした。こうして現在の県警極真空手部が存続しておりますが、これはまぎれもなく、戸田師範のご努力の賜物であり、我々部員は、師範のご努力を目の当たりにしている以上、ことあるごとに「押忍。」しか言えないのであります。

極真空手を学び、学んだ技を実際に使うことは、一般人の道場生と比較すれば、その可能性が高いと思われまし、実際に現場での被疑者の身柄確保等で使った部員も存在します。しかし、ただ単に習得した技の実践使用云々ではなく、稽古で培った精神力、胆力は、日々の業務や捜査において、どれだけ力をもらえたのか、計り知れないことは部員自身が間違いなく体感していることであり、さらに所属、担当業務が多岐にわたる各部員と「顔を思い出しながら電話できる。」といった警察組織の各部門間の垣根を超えた絆を形成していることは、県警空手部の強みでもあります。

「愛媛県警極真空手部はどうあるべきか」と題して寄稿させていただきましたが、我々部員は、極真空手を戸田師範を通して学んでおります。その空手から習得したものを、現場執行の際の有効な手段として活用するばかりか、稽古、試合を通じて得た精神力、忍耐力、胆力といった力を、業務でぶつかった辛いこと、苦しいことに対して投げ出さない、逃げ出さない、言い換えれば「極真空手は背中を見せない。押忍の精神。」を体現していくのであります。ここ数年では、試合出場、好成績を出した部員もおります。県警極真空手部は今後も戸田道場とともに歩みながら日々、警察組織の一員として、その責務を全うする覚悟であります。

(潮見(本部)道場において

県警極真空手部特別稽古の様子)



# 第22回大洲少年空手道大会

令和3年3月14日 大洲市総合体育館

本年3月14日(日)に第22回大洲少年大会が、大洲市総合体育館にて開催された。

昨年はコロナ禍により非常事態宣言が発せられたことから、1年間の延期となり感染予防のために今回は他流派を入れずに戸田道場のみで、午前中は型試合に約140人午後は組手試合に約160人が出場した。

開会式、閉会式は行わず、観戦者は観客席のみから声を出さずに声援するなど取れる全ての感染予防対策を行ってこの日に臨んだ。

型試合は審判のあいまいさを厳格にするために、戸田師範を中心にして師範代と共に「型試合審判規定」が昨年11月に作られ、直前には審判講習会も行って備えて実戦で初の審判となった。

審判規定は型の三要素である「技の緩急」「力の強弱」「息の調整」の他に「動作の正確性」「残心」「礼節など」の3点を加えて判定項目とし、技の動きを間違った場合などの減点、型を忘れて長時間継続できない場合などを失格とする新たな規定を定めたものである。

型試合は午前中に、その規定に基づいた審判により行われ、9クラスに分かれてトーナメント方式で実施された。

上級の部では幼年は土井瑛介(味酒)、小学1・2年で西森正道(三津)、小学3・4年では寒作心(本部)、小学5・6年で寒作円(本部)、男女混合の中学生は村上咲弥(空港通り)が頂点に立ち、その中で土井瑛介、寒作心、寒作円の3人は昨年11月の第9回部内交流大会でも優勝しており今後は他の選手の目標として更なる精進が求められる。

また、初級の部を含めたその他の選手も格段の成長が認められ努力の成果が見られた。

入賞者数の道場別では本部道場が10人、三津道場が8人、味酒道場が5人と群を抜いていたが、三津道場と同じく楠田師範代と烏谷先生が指導する新生の味生道場も2人が入賞しており、両指導者の卓越した指導力の下で実力が養われていることが窺えた。

午後の組手の部は大洲少年大会史上初めてのリーグ戦で、学年ごとに個人の實力レベルによって複数の試合を戦うという新たな試合方式で行われた。

トーナメント方式では、序盤で敗れると1試合しかできないことから、複数回試合ができる今回の方式は非常に好評であった。

特に強化選手が入ったリーグでは、強豪選手を破るチャンスとばかり、他の選手が必死で戦う姿があちこちの試合場で見られた。

その中の上級クラスの優勝者で目を引いたのは、小3男子の保子凜成(上部)は同じく強化選手Bの高橋瑛徳(本部)を抑え、小4女子では急成長した竹田衣緒莉(味酒)がグラチャン出場権獲得の松井瞳衣(今治)に挑戦し上回り、小5男子で強化選手A同士の戦いを岩城斗也(西条)が岡裕人(本部)に技ありを決めて部内交流大会の雪辱を晴らし、小5男子では強化選手B同士で、しかも今治道場同門の戦いを伊藤陸が高橋琉喜を制して、實力伯仲の選手5人が参戦した小6男子は福岡陽澄(本部)が超強豪の北光希(今治)から技ありを奪い勝利し、中学男子軽量級は強化選手B同士の戦いで松井瞭誠(今治)が高橋葵唯(上部)に競り勝ちするなど、その他多くの試合が見る者を大いに興奮させ場内を熱くした。

道場別の入賞者数上位は本部道場と今治道場が14人と他を圧倒し、上部道場と三津道場が8人、味酒道場5人とそれに続いたが、型試合同様に指導者2人が同じ味生道場が6人も入賞者を出し、組手でも實力の高さが認められたが、道場生の大半が幼年と小学低学年であり上級生になってから成長が持続できるか注目される。

本大会は2年ぶりの開催であり、感染予防の為に多くの制約があったものの役員、スタッフ、選手、ご父兄の皆様の協力のお陰で無事成功して終わった。

来年はコロナが終息し、無事に開催できることが願われる。

型の部

	優勝		準優勝		3位		3位	
幼年	土井瑛介	味酒	阿部光真	三津	高橋凜花	本部	西野成	空港
小学1・2初級	小笠原吏興	味生	秋月騎心	味生	東大翔	本部	芳野穂佳	三津
小学1・2上級	西森正道	三津	兵頭海輝	三津	小川紗良	三津	渡部陽道	三津
小学3・4初級	田村英誉	味酒	芳野翔琉	三津	勝田瑛斗	味酒	高橋愛葵	本部
小学3・4上級	寒作心	本部	岩城斗也	西条	ンガンガハダサ	本部	芳野伶穂	三津
小学5・6初級	西村健吾	味酒	仙波優佳	本部	未廣鈴生	本部	川上颯太	川東
小学5・6上級	寒作円	本部	村上晴紀	本部	佐々木瑛太	川東	池内琥星	味酒
中学初級	畠岡慎一	大洲	村上峻基	今治				
中学上級	村上咲弥	空港	二宮快地	本部				

組手リーグ戦

	優勝		準優勝		3位	
幼年(年中)	石村優晴	本部				
幼年(年長)①	戎居駿助	味酒	阿部光真	三津		
幼年(年長)②	菅陸人	今治	西野成	空港		
幼年(年長)③	土井瑛介	味酒	池田郁翔	本部		
小1初出場①	石崎武虎	味生	伊與田恵士	味生		
小1初出場②	小笠原吏興	味生	荒牧晃希	空港		
小1初級①	川端大雅	味生	砂田蒼彩	上部		
小1初級②	戸田一颯	空港	谷口莉駒	今治		
小1初級③	小川沙良	三津	秋月騎心	味生		
小2初出場	中尾梓	味酒	玉井俊輔	本部		
小2初級①	東大翔	本部	砂田鷹影	上部		
小2初級②	坂本國弘	本部	福田優真	上部		
小2中級①	芥川團	西条	上浅史人	大洲		
小2中級②	西森正道	三津	福田ゆう	上部		
小3女子初級	畠尾心奏	味生				
小3男子初級1	芳野翔琉	三津	松木蒼真	上部		
小3男子初級2	今川遥斗	今治	土井湊太	味酒		
小3男子初級3	立川湧空	大洲	伊藤源二	本部		
小3男子初級4	藤本龍祐	鷹子	山本優翔	川東		
小3男子初級5	川上滉人	川東	瀧宮蔵人	三津		
小3男子中級	保子凜成	上部	高橋瑛徳	本部		
小4女子初級	竹本遥空	三津				
小4女子中級	竹田衣緒莉	味酒	松井瞳衣	今治		
小4男子初級・初出場①	芳野伶穂	三津	石井彰	今治		
小4初級	安井大祐	今治	吉崎駿太	今治		
小4男子初中級	熊野未来	上部	井口尊心	三津		
小4男子中級	岩城斗也	西条	岡裕人	本部		
小5女子	神原杏菜	今治				
小5男子初級	川上颯太	川東				
小5男子中級①	伊藤陸	今治	高橋琉喜	今治		
小5男子中級②	大野祐樹	今治	村上晴紀	本部		
小6男子初級	白翰翔盛	川東	二宮悠翔	本部		
小6男子中級1	福岡陽澄	本部	北光希	今治	東悠樹	本部
小6男子中級2	伊藤銀河	本部	清水航一郎	本部		
中学男子軽量級	松井瞭誠	今治	高橋葵唯	上部		
中学男子重量級	村上峻基	今治				

## 栄えある入賞者

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、昨年2月以来各流派の大会も延期や中止となり、出場の機会が失われ、戸田道場も部内のみでの大会を3回開催したものの他流派の大会出場ができない状況が続いていました。

しかし、今年になり感染者が減少して来たことから他流派の大会開催も始まり、やっと出場が叶うようになりました。

とはいえ7月現在では、出場できたのは下記の大会のみですが、今後は各大会の感染予防対策を勘案しながら道場生に出場案内をしていく予定です。

### ■第25回桃花讃岐富士杯(3/19 坂出市立体育館 無門塾主催)

2020年に開催予定だったが、コロナ禍で延期となり多くが欠場する中、上部道場のみが出場。

優勝 福田心優(小4 女子上級の部30kg以上 上部)準優勝 熊野未来(小4 男子中級 上部)、福田ゆう(小2 女子初級 上部)

### ■2021リアルチャンピオンシップ県予選(7/4 砥部町ゆとり公園武道場 道真会館主催)

本年のコロナ感染拡大により、4月、5月と稽古を中断していて稽古不足ながら47人と参加団体の中で飛びぬけて多数が出場。15人が入賞すると

いう快挙を成し遂げました。

優勝 小学1年女子初中級 高橋凜花(本部)・小学3年女子初中級 福田ゆう(上部)・小学3年男子初中級 西森正道(三津)・小学5年女子初中級 福田心優(上部)・中学1年男子上級 北光希(今治)

準優勝 小学4年男子初中級 八木優磨(今治)・中2.3男子上級 松井瞭誠(今治)

第3位 小4年男子初中級 立川湧空(大洲)、小学男子小5男子初中級 山内煌河(味酒)・小5年女子初中級 竹田依緒莉(味酒)・小6年男子上級 伊藤陸(今治)、ベスト8入賞 小学3年男子初中級 東大翔(本部)、小学3年男子初中級 安井祐貴(今治)

## 令和3年度 強化選手指定者

昨年はコロナ禍の中、大会開催がほとんどなく強化選手の選考資料が少なかったことから昨年の強化選手を継続することとしました。

ただし、受験などの理由で休会か、何らかの理由で稽古にほとんど参加しなかった人は指定解除となりました。

そのために、強化選手Aは3人、強化選手Bは4人が削除となりました。

また、昨年1月に開催された「第50回全日本大会(無差別)」で大8位に入賞した志賀賢一先生(西条)と、唯一開催された昨年11月の第9回部内交流大会と今年3月の第22回大洲少年大会において、組手、型共に上級の部で2大会共に優勝した選手4人を強化選手Aに追加しました。

追加されたのは、組手強化選手Aに2人、型強化選手Aに3人となります。組手強化選手Bの該当者はいませんでした。

### ◆組手強化選手A

志賀賢一(一般男子 西条 新規)、國本明佳(一般女子 今治 継続)、松井弥陸(高3年男子 今治 継続)、近藤さやの(高3女子 本部 継続)、小澤叶夢(中2男子 西条 継続)、北光希(中1男子 今治 継続)、中野結翔(中1男子 空港通り 継続)、福岡陽澄(中1男子 本部 新規)、岡裕人(小5男子 本部 継続)、岩城斗也(小5男子 西条 継続)、芥川團(小3男子 西条 継続)

### ◆組手強化選手B

松木洋三(壮年男子 上部 継続)、菊川真莉紗(高2 女子 継続)、松井瞭誠(中3男子 今治 継続)、高橋葵唯(中2男子 上部 継続)、清水航一郎(中1男子 本部 継続)、穂木竜之介(中1男子 川東 継続)、神原杏菜(中1女子 今治

継続)、高橋琉喜(小6男子 今治 継続)、池内琥星(小6男子 味酒 継続)、瀧田蓮(小6男子 川東 継続)、高橋笑(小6女子 上部 継続)、田邊秀磨(小5男子 上部 継続)、松井瞳依(小4女子 今治 継続)、高橋瑛徳(小4男子 本部 継続)、保子凜成(小4男子 上部 継続)

#### 組手強化選手Aに指定される条件

四国選抜大会(旧愛媛県大会)など全日本少年少女空手道選手権大会(オープントーナメントグランドチャンピオン決定戦)権利取得大会、及び極真カラテ全中四国交流大会、広島県交流試合、大洲少年空手道大会で準優勝以上を年間2回以上入賞すること。一般部ではこれ以外に、全日本ウェイト制空手道選手権大会、全日本無差別空手道選手権大会でベスト8以上の成績を上げることにも含まれる。(Aに指定された選手は合宿費免除、(一社)極真会館主催の大会の出場料全額負担、全日本大会の旅費一部負担。その他海外の大会出場時の旅費全額負担)

#### 組手強化選手Bに指定される条件

(一社)極真会館及び他流派の大会(初級は除く)において4位以上を年間2回以上、又はそれらと組み合わせるか単独で戸田道場部内交流大会を含む他流派の大会の初級の部で優勝を2回以上した場合。



#### ◆型強化選手A

菊川真莉紗(高2女子 今治 継続)、寒作円(中1男子 本部 新規)、池内琥星(小6男子 味酒 継続)、岩城斗也(小5男子 西条 継続)、寒作心(小4男子 本部 新規)、土井瑛介(小1男子 味酒 新規)

#### 型強化選手Aに指定される条件

大洲少年大会、部内交流大会及び他組織の大会上級の部で優勝を年間2回以上した場合。なお、型強化選手にはBの指定はない。

(Aに指定された選手は合宿費免除、(一社)極真会館の型大会出場料全額負担)





## 昇級審査合格者

コロナ禍で令和2年6月に予定されていた昇級審査は中止となったことから、感染が落ち着いた10月4日に午前、午後の2回と11日には昇段審査終了後の3回に分けて密を防ぐために実施され合計140人という多くの人が受審した。そのためか今年3月28日の審査は64人とやや少なめな受審者であった。

【令和2年10月4日・11日】砥部町陶街道ゆとり公園武道場

### 少年部

◆2級 福岡陽澄・寒作円・林修作(本部)、池内琥星(味酒)、中野結翔(空港通り)、水本知希(大洲)◆3級 佐々木瑛太・白石悠翔・瀧田蓮(川東)◆4級 岡裕人・村上晴紀(本部)、村上驍・荒巻優翔(空港通り)、芳野怜穏・井口尊心(三津)、田邊秀麿(上部)、河端秀虎・辻田紗奈(川東)、岩城斗也(西条)、神原杏菜・伊藤陸(今治)◆5級 仙波優佳(本部)、西村健吾・小松陽翔(味酒)、穂木竜之介(川東)◆6級 寒作心・高橋英徳・ハダサ・ローズマリー(本部)、政岡魁人・山内煌河(味酒)、岡田拓真・松下環士(空港通り)、西森正道・阿部杏香(三津)、福田心優・石川愛莉・松木蒼真・保子凜成・玉井瑛人・熊野未来(上部)、白鞘翔盛・今津瑛貴(川東)、吉崎駿太・重松陸人・石井彰・村上峻基・大野祐樹(今治)◆7級 宮崎悠一郎(本部)、勝田瑛斗・竹田依緒莉・土井湊太(味酒)、戸田悠仁・田中蓮大(空港通り)、小川紗良・渡部陽道・井住健人・兵頭海輝(三津)、渡部郁斗(鷹子)、石川遥輝・福田優真・福田ゆう・砂田鷹影・砂田蒼彩・原五吹・浅海愛夢(上部)、日野煌太(川東)、安井大祐・桧垣優太(今治)、西村唄・立川湧空・水本宙希(大洲)◆8級 坂本國弘・玉井俊輔(本部)、矢野太晴・越智隆史朗・仙波悠星・古江理人(味酒)、荒巻晃希(空港通り)、秦瑞来(鷹子)浅海琥雅・安井祐貴・谷口莉駒(今治)、濱田夏向・上浅史人(大洲)◆9級 村上颯祐(本部)、竹本遥空(三津)、西野心陽・西野万琴(空港通り) 武田禪・野本明那(鷹子)、大滝晃平(上部)、矢野和希(川東)◆10級 秋山仁・阿立武大・高橋凜花・西濱政希・二宮新太(本部)、宮本和弦・北尾衛都・中尾健吾・中尾梓・戎居俊助(味酒)、阿部光真(三津)、西野成・戸田一颯・田中瑛大(空港通り)、岡井颯佑・岡井陽大・渡部菜心(鷹子)、日野瑠太(川東)、八木結聖(今治)

### 一般部

◆1級 濱田晋太郎・伊藤友紀子・二宮快地(本部)、白石将博(川東)◆2級 村上敦(空港通り)◆3級 宮崎小織(本部)、村上咲弥・荒巻基尚(空港通り)、松木洋三(上部)◆4級 辻田道晴(川東)◆5級 保子圭・石川照人・飯尾龍太郎(上部)、芥川光宏(西条)◆6級 玉井祐子(本部)、勝田歩葉(味酒)◆7級 近藤千尋(本部)、越智茂登実(味酒)、岡田真治・田中利典(空港通り)、穂木徹(川東)、石川瑚乃美(県警)◆8級 細川愛美(空港通り)◆9級 矢野一志(川東)



【令和3年2月8日】砥部町陶街道ゆとり公園武道場

### 少年部

◆2級 北光希(今治)◆3級 伊藤銀河・東悠樹(本部)◆4級 末廣玲生・高橋蒼大・二宮悠翔(本部)、高瀬壮(西条)、東優伸・高橋琉喜(今治)◆5級 村上一流・末廣琉杏(本部)、近藤裕介(空港通り)、石川愛莉・松木蒼真・保子凜成(上部)、畠山周作・立川煌貴・矢野翔琉(大洲)◆6級 石川遥輝・砂田鷹影・砂田蒼彩(上部)、芥川颯(西条)◆7級 高橋大翔(本部)、高橋優杏(味生)、アリブレフト玲音(今治)◆8級 東大翔(本部)、川端大雅・山本昌宝・小笠原史興・秋月騎心(味生)、大滝晃平(上部)、川上滉人(川東)◆9級 野村怜牙(本部)、畠尾心奏(味生)、和気里彩・逢坂裕裕(鷹子)、原田朔矢(今治)、高橋拓真(西条)◆10級 野村侑芯(本部)、瀧平陸翔・土井瑛介(味酒)、畠尾竜成(味生)、和気遼哉(鷹子)

### 一般部

◆1級 高橋冬椰・高橋蒼唯(上部)◆2級 小澤叶夢(西条)、池田翔真(今治)  
◆3級 保子圭・石川照人(上部)◆4級 畠岡慎一(大洲)  
◆5級 高橋武(上部)◆6級 鎌田真矢(上部)  
◆9級 亀井志苑(本部)、松木宏史朗・平田勝靖(西条)





### 熊本南豪雨被災者に支援金と 今治タオルを送付

昨年7月に数日間に亘って九州地方を襲った激しい豪雨は、特に熊本県南部地方に壊滅的な被害をもたらしました。

極真会館戸田道場では被災者の方々に支援することを決め、7月の災害直後に極真会館熊本早田道場を通じて被災者に今治タオル600枚を送り、さらに9月に実施した日帰り合宿の参加料全額と大洲警察署空手教室を中心とした募金活動、そして第9回部内交流大会会場内での募金活動で得た合計約21万円を熊本県庁の豪雨災害募金窓口へ送金しました。

戸田道場では道場設立当時から、東日本震災の災害孤児支援、交通事故や犯罪により保護者を亡くした遺児たちの進学支援を継続的に行ってきました。さらに、令和30年7月に南予地方を襲った西日本豪雨で、家屋などを流失した大洲警察署教室の道場生6家族に募金活動で得た物資や支援金をお渡ししました。

この様に困窮した人達を支援することは社会貢献につながり、空手を通して生きる喜びや、自分に与えられた環境や境遇に感謝することを学び続けることとなります。

今後も、支援活動を続けていきますので皆様のご支援をお願いします。

### 2度に亘る日帰り合宿を実施

昨年9月13日(日)に秋季合宿を砥部町陶街道ゆとり公園内武道場で実施しました。コロナ禍のため宿泊合宿ではなく日帰りにし、密を避けるために午前と午後に分かれて実力に伴った稽古を実施しました。

また、本年2月28日(日)に日帰り冬合宿を同武道場で午前は松山地区、午後は東予地区、大州・内子教室を対象に行いました。



調の悪い人の参加制限、手指の頻繁な消毒、マスクや飛沫防止用ヘッドガードを使用して感染予防には最大の注意をはらって行いました。

色々と制限の多い中、秋季合宿には118人、冬合宿には123人と多くの道場生が参加して厳しい稽古をやり遂げたのでした。

2月の冬合宿では、新たに作られた「型審判規定」に基づいた審判方法をマスターするための審判講習会や黒帯会総会も行われました。

### 四国選抜空手道選手権大会開催決定

昨年はコロナ感染拡大に伴い中止となった「第8回四国選抜空手道選手権大会」が、愛媛県武道館主道場で10月24日(日)に開催されることが決定されました。

この大会は、今まで愛媛県大会として開催されてきましたが、大会の規模に合わせて今回から名称変更がされます。

今まで通り上級の部は「全日本少年少女選手権大会(通称グランドチャンピオン決定戦)」の選抜大会となります。

ただし、オープントーナメントではなく四国内あるいは愛媛県内の道場の選手のみ出場になる予定です。

初級の部などのクラスも多く設定されますので、大勢の道場生が出場が期待されます。

### 黒帯会機関誌創刊

本年2月に黒帯会会長の濱井敦史師範代(新居浜上部道場責任者)が、黒帯会機関誌を創刊しました。

黒帯会は平成30年2月に、極真空手の普及と黒帯の自覚を促すと共に相互の親睦を深めるために発足しました。

会長他、副会長として青野大輔(新居浜川東道場責任者)、橋本司(県警空手部部长)、寒作典員(県消防空手部部长)の3人が就任していますが、その存在や活動を広報するべく、今回会長自らが作成しました。

黒帯会の更なる活発な活動と相互の親睦が深まることが期待されます。

### 世界空手道選手権大会延期

(一社)極真会館で4年に1度日本で開催される世界大会。神原敏行・志賀賢一選手が出場しベスト8に入賞した第4回大会から4年、本来であれば今年春に「第5回世界大会」が新横浜武道館で開催される予定でしたが、このコロナ禍の状況で来年の4月に延期されました。

ところが、一部の海外の国では感染者の減少は見られるものの、日本を含む多数の国の感染状況から開催が危ぶまれ、理事会によって更に1年の延期つまり2023年4月への延期が決定されました。

その結果、世界大会の選抜大会は来年1月に駒沢オリンピック公園体育館で開催される「第51回全日本空手道選手権大会(無差別)」と、同年6月開催予定の大阪府立体育館での「第37回ウェイト制全日本空手道選手権大会」と決まりました。

戸田道場の選手にとっては出場チャンスの開けてある意味で朗報と言えるのではないのでしょうか。

コロナが終息に向かった暁には、戸田道場の選手が活躍し上位入賞を果たし、世界大会に多くの選手が出場することが望まれます。

### 動画の配信とステップ図の作成

昨年10月に戸田師範と杉野師範代により、崩しを使った投げとステップが監修され、写真や動画、イラストで分かりやすく解説をされ各道場に配信されました。

さらに、今年に入り指導者向けに、戸田師範の解説による型の解説動画が作成されました。

平安や昇段指定型を演武に伴って詳しく解説されており、一部はコロナ禍においての道場での稽古中止の間に各道場に配信されました。

道場で稽古できない道場生が自宅での自主稽古に生かされたものと思われます。

現在、極真戸田道場の理念や昇級・昇段規定型や崩しによる投げ、ミット稽古、コンビネーション、受け返しなどを、写真や動画に解説を合わせたDVDの「教則本」を作成中であり、来年中頃の完成を目指しています。

全道場生に安価に購入してもらおう予定であり、極真空手修行の教科書ともいえる存在になることでしょう。

### 久々の合同強化稽古実施

令和3年6月13日(日)午前9時30分から3時間に亘り、今治市菊園町のみどり公園武道館において戸田道場合同強化稽古が実施され、長引くコロナ禍により、実に2019年10月20日以来久々の実施となりました。

密を避けるため、一定の実力がある道場生のみ制限されましたが、道場責任者8人を含む64人という多くの人が参加し、小学6年生以上及び一般部を神原先生、小学5年生以下を志賀先生が受け持って分かれて行われました。ステップ、ミット、スパーリングなど、日頃は一緒に稽古できない他の道場生と共に充実した稽古ができました。

最後に戸田師範から空手独特の丹田呼吸法を使った「瞑想」方法の指導があり、心と身体の究極のリラックス方法を学びました。

### 聖火ランナー

2021年4月22日、潮見(本部)道場の二宮快地君が東京オリンピックの聖火ランナーを勤めました。

昨年、オリンピックが延期になったと聞いた時はとても残念に思うと同時に、来年こそはコロナが収束して安心してオリンピックができるようになってほしいと、これまで以上にコロナ対策をしてきました。そして、去年からの思いも背負い走りました。





# 新日本建設株式会社は 極真会館愛媛県戸田道場を 応援しています。

「暮らし」を試す

新日本建設の家は、他とどこが違うのだろう。

自然素材でできた家は、何がどう違うのだろう。

そんな疑問を解消するために、実際に泊ってみませんか？

ドアを開けた時に感じる木の香り。

素足に触れる床の感触。

目覚めた時の心地よい温度や湿度。

全身で感じてください。

本社にて無料相談会やっています。  
お気軽にお越しください。

TEL:0120-41-0006

(受付時間 09:00~18:00)

〒791-0054

松山市空港通3丁目9-3 新日本建設株式会社

TEL (089) 971-0255 FAX (089) 971-0573